

平成 24 年「岩手県の東日本大震災津波からの復興に関する意識調査」結果 (速報) の公表について

復興計画の進行管理の 1 ツールとして年 1 回実施する「復興意識調査」の調査結果(速報)を取りまとめましたので、公表します。
本調査は、毎年継続的に実施し、時系列での意識の変化を把握していくことが主目的ですが、第 1 回目の今回の調査結果からは下記Ⅱのような特徴がみられます。
県では、今回の結果や事業の進捗状況等の調査結果を踏まえ、必要に応じ、施策の見直しを行い、復興に向けた取組の着実な推進を図って参ります。

I 調査について

1 目的

復興計画に基づいて県が行う施策、事業の実施状況や進捗に関し、県民がどの程度重要だと感じ、どの程度復旧・復興を実感しているか等を毎年継続的に把握することにより、計画の実効性を高め、長期にわたる復興に向けた取組の着実な推進を図るもの。

2 調査期間

平成 23 年度から平成 31 年度(復興計画の計画期間終了後の翌年度)までの毎年度実施を予定

3 平成 24 年調査の実施状況

- (1) 調査票発送 平成 24 年 2 月 6 日
- (2) 最終投函期限 平成 24 年 3 月 1 日
- (3) 回収状況 回収率 71.8% (3,590 人/5,000 人)

Ⅱ 調査結果(速報)の概要について

1 生活全般の満足度について

(1) 今の生活全般の満足度 [P2]

- 【県全域】「満足できる状態にある」「やや満足できる状態にある」の割合：35.7%
「やや不満な状態にある」「不満な状態にある」の割合：33.8%
- 【沿岸部】「やや不満な状態にある」「不満な状態にある」の割合：43.9%

(2) 今の生活の満足度の 1 年前(震災前)との比較 [P3]

- 【県全域】「変化はない」の割合：57.0%
- 【沿岸部】「どちらかといえば悪い方向に変化した」「悪い方向に変化した」の割合：48.3%

2 一般的な復旧・復興の実感などについて

(1) 岩手県全体の復旧・復興の実感 [P4]

- 【県全域】「やや遅れていると感じる」「遅れていると感じる」の割合：59.6%
- 【沿岸部】「やや遅れていると感じる」「遅れていると感じる」の割合：59.5%

(2) お住まいの市町村の復旧・復興の実感 [P5]

- 【県全域】「どちらともいえない」の割合：30.3%
「やや遅れていると感じる」「遅れていると感じる」の割合：29.4%
- 【沿岸部】「やや遅れていると感じる」「遅れていると感じる」の割合：53.9%

(3) 現在の生活への震災の影響 [P6]

- 【県全域】「影響を受けていない」「あまり影響を受けていない」の割合：48.0%
- 【沿岸部】「やや影響を受けている」「影響を受けている」の割合：54.5%

3 施策別の復旧・復興の重要度・実感などについて

(1) 重要度が高い項目 [P9]

- 【県全域】 1 医療機関等の機能回復
2 雇用の場の確保
3 再就職に向けた取組

地域別に見ると、沿岸南部では、「道路網の整備」の重要度が最も高い。

(2) 進捗への実感が低い項目 [P10]

- 【県全域】 1 防潮堤等の整備
2 雇用の場の確保
3 鉄道網の復旧

地域別に見ると、沿岸北部では「放射能への安全対策」、沿岸南部では「鉄道網の整備」の進捗への実感が最も低い。

(3) 復興促進ニーズ度(※)が高い項目 [P11]

- 【県全域】 1 雇用の場の確保
2 住宅や宅地の供給
3 再就職に向けた取組

地域別に見ると、沿岸北部では「放射能への安全対策」、沿岸南部では「鉄道網の整備」の復興促進ニーズ度も高い。

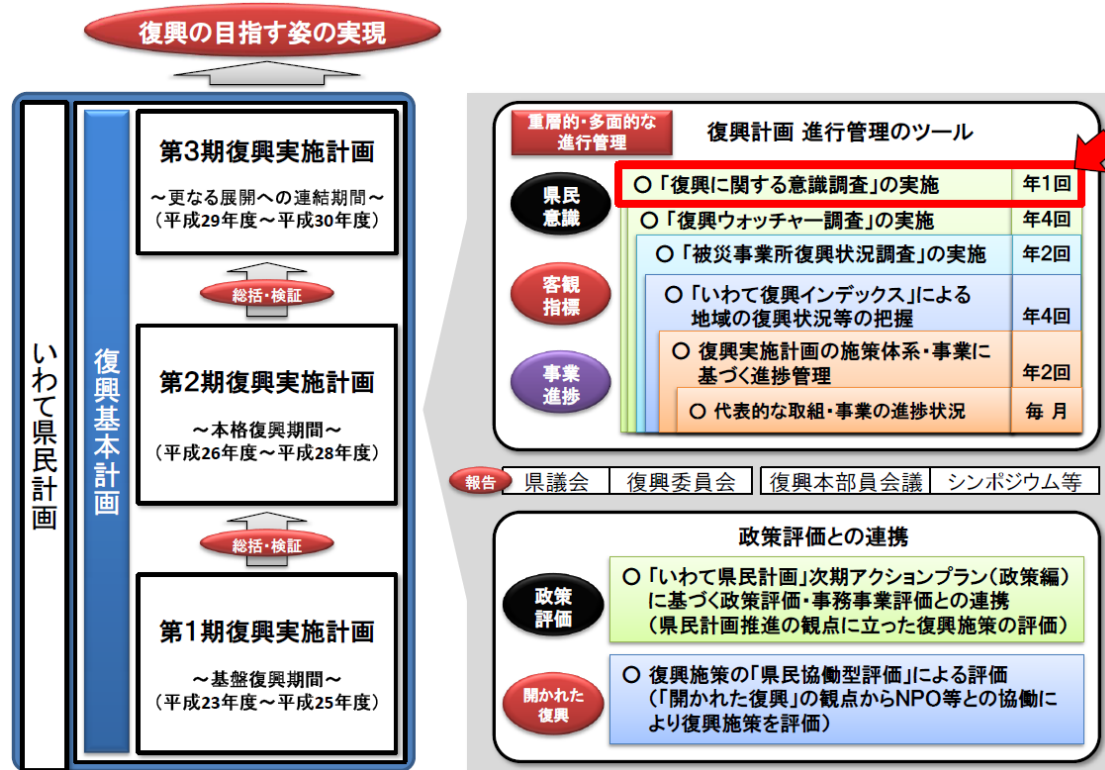
(※)「復興促進ニーズ度」=「重要度」-「進捗への実感」
(重要度が高く、進捗への実感が低いことから、復興を急ぐニーズが高いと解される。)

4 復旧・復興に向けた優先施策について [P16、17]

- 【県全域】 1 防災都市・地域づくり
2 生活の安定と住環境の再建等への支援
3 雇用維持・創出と就業支援

地域別に見ると、沿岸南部では、「交通ネットワークの構築」も高い。

<復興意識調査の位置付け>



<担当>

復興局企画課 019-629-6945、6925